

祝福されよ、主に信頼する人は

エレミヤ 17 : 5 - 10、14



司祭 ヨハネ 井田 泉

2019年2月17日

顕現後第6主日

奈良基督教会にて

**「祝福されよ、主に信頼する人は。主がその人のよりどころ
となられる。」 エレミヤ 17:7**

ここに、神さまの手が差し伸べられています。神さまの確かな手、力強い手、しかもかぎりなく優しい手が、差し出されています。人はその手に支えられ、その手に包まれ、その手に導かれます。勇気と力が湧いてきます。何という幸せなことでしょうか。

**「祝福されよ、主に信頼する人は。主がその人のよりどころ
となられる。」**

この言葉で、わたしたちは生きて行くことができます。主に信頼し、信頼関係で神さまと結ばれているなら、神さまがわたしたちのよりどころとなってくださる。神はわたしたちの守り、わたしたちの逃げ場、また励まし、力です。

個人的なことを言えば、この言葉はわたしの特別な愛唱聖句のひとつです。しばしば困難と困惑にうずくまろうとするわたしを、この言葉が支え、神さまをもっと信頼するように促してくれました。

**「祝福されよ、主に信頼する人は。主がその人のよりどころ
となられる。」**

この言葉が皆さんの励ましとなり、力となり、祝福となることを心から願い、祈ります。

けれどもこの言葉をわたしたちに残してくれたエレミヤという人は、自分自身がこの言葉に支えられつつも、まったく正反

対の現実を経験してきました。いや、正反対の現実にしんどってきたからこそ、この言葉にすがって生きていたのではないかと思います。

その正反対の現実が、今日の旧約聖書日課の冒頭に語られていました。

「主はこう言われる。呪われよ、人間に信頼し、肉なる者を頼みとし、その心が主を離れ去っている人は。」エレミヤ 17:5
恐ろしい言葉です。神さまが人を呪われるということがあるのでしょうか。

「呪われよ、人間に信頼し、肉なる者を頼みとし、その心が主を離れ去っている人は。」

心が主から離れ去っていること。これが不幸です。愛と真実と正義と平和の神さまから、人の心が離れたらどうなるか。愛を失い、真実を歪め、正義を憎み、平和を破壊します。ここで言われている「人間に信頼し、肉なる者を頼み」というのは、権力、権威、富、有力な立場を持っている人と結びついて、自分の立場を有利にし、真実の訴えを退け、非難と中傷を行って人を傷つけ、支配しようとする——そういうあり方です。これは自分も不幸であり、人も不幸にする。しかし人間はこのようなあり方に陥りやすい。預言者エレミヤはこのような人びととその力によって、迫害され、命の危険にさらされたのでした。

ところでここでエレミヤが神さまから聞かされた言葉の中に

「心」という言葉がありました。

「呪われよ、……その心が主を離れ去っている人は」 17:5

エレミヤは当時のユダの国、社会と人びとのあり方を立て直さなければならぬと願って活動し、そのゆえに非難され、迫害されました。目に見える悪、耳に聞こえる悪、生活と体を脅かす悪に直面していました。その中で彼が深く苦しんだのは、人の心の歪みと頑なさでした。彼の心は、人びとの心のありようを深く嘆いたのです。

彼はつぶやきます。

「人の心は何にもまして、とらえ難く病んでいる。誰がそれを知りえようか。」 17:9

心が病んでしまっている。ここでいうのは、今日しばしば話題になる「心の病」のことではありません。人の心が歪んで、頑なになってしまって、善悪も真実と不真実も区別ができなくなっている。温かさも思いやりもない冷酷。このようになってしまった人びとの心は、癒しようがなく、理解することも解明することもできない。——これがエレミヤの魂のうめきです。

しかしこれに答えて神が言われます。

「心を探り、そのはらわたを究めるのは、主なるわたしである。それぞれの道、業の結ぶ実^{わざ}に従って報いる。」 17:10

エレミヤには、人には理解不可能でも、神は人の心の奥底まで究め尽くされるというのです。

「心を探り、そのはらわたを究めるのは主なるわたし」

肉体、内臓からすれば「心」とは心臓、「はらわた」と訳されたのは腎臓です。人の心も体も造られた神にとっては、分からないことは何もない。

「心を探り、そのはらわたを究めるのは、主なるわたしである。」

心もはらわたも、人の最も内なるところ。人の感情、意志、そして行動のおおもと、根源です。そこを神は探り、究めつくされる。

エレミヤよ、あなたは人の心の頑なさや歪みと闇に苦しんでいるが、わたしはそれを全部知り尽くしている。あなたの魂の苦しみもすべて分かっている、と主は言われます。

主が知ってください。神が分かっています。これがエレミヤのよりどころとなります。それはわたしたちにとってもそうです。しかも神は、悪のはびこることを、真実が曲げられているのを、いつまでも放置されない。

「それぞれの道、業の結ぶ実に従って報いる」と主は言われます。神は、それぞれの歩んでいる道を見定め、この人びとのもたらしている悪しき現実を裁く、と言われたのでした。

この神の答えによって、エレミヤのうちから祈りの訴えがほとばしり出ます。

「主よ、あなたがいやしてくださるなら、わたしはいやされます。あなたが救ってくださるなら、わたしは救われます。あなたをこそ、わたしはたたえます。」 17:14

このようなエレミヤの涙の祈りを引き受けられたのが、数百年後に人として来られたイエス・キリストです。イエスもまた、エレミヤと同様に、人の言葉と行動の奥にある人の心を見て嘆き、また憤られました。

エレミヤはそれでも、道を誤った人たち、自分を迫害する者たちのために祈りました。イエスもまた自分を憎み、迫害する人びとのために祈られました。

一つだけ気になることがあります。今日の冒頭の言葉です。

「呪われよ、人間に信頼し、肉なる者を頼みとし、その心が主を離れ去っている人は。」

「呪われよ」としか言えない現実がある。人の心はあまりにも頑なさの中に病んでいるからです。しかしこれが最終的な神の結論ではありません。むしろ、神は、心をご自分から離れ去った人びとを呼び返されるのです。肉なる者、傲慢な人間の力に頼ることをやめるように。

救い主イエス・キリストは人びとを呼び返すために来られました。そして、人が受けるはずの呪いをご自分が引きかぶられました。どのようにしてでもご自分のもとに人びとを呼び返そうとされる神の切なる願いと決意が、イエス・キリストにおいて体現されています。

今日、最初に聞いた言葉

「祝福されよ、主に信頼する人は。主がその人のよりどころ
となられる。」17:7

この言葉を、主イエスは新しくわたしたちのために語って
くださいます。

「わたしがあなたのために存在するのだから、わたしを信頼
しなさい」。

信頼するわたしたちをイエスは祝福の中に守り、生かしてく
ださい。イエスはわたしたちを支える確かな手となり、わ
たしたちのよりどころとなられるのです。

祈ります。

神さま、あなたは人の心の何ともしがたい頑なさを知ってお
られます。また人の心の苦しみを知っておられます。わたした
ちの心を清め、また癒してください。あなたはわたしたちのた
めに祝福の手を差し出してくださいます。あなたの手にす
がり、新しくあなたを信頼して歩みだすことができるようにし
てください。主イエス・キリストによってお願いいたします。
アーメン